

科目名	番組企画制作				
担当教員	渡邊 一久		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる				
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	企画Ⅰ	班編成→企画			
2	企画Ⅱ	企画提出→企画内容修正			
3	企画Ⅲ	各班による企画内容プレゼンテーション			
4	企画Ⅳ	プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う			
5	企画Ⅴ	プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う			
6	絵コンテ制作実習Ⅰ	企画内容にそった絵コンテ制作Ⅱ			
7	絵コンテ制作実習Ⅱ	企画内容にそった絵コンテ制作Ⅲ			
8	制作実習Ⅰ	企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める			
9	制作実習Ⅱ	企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める			
10	制作実習Ⅲ	スケジュール調整・許可取り申請			
11	制作実習Ⅳ	スケジュール調整・許可取り申請			
12	制作実習Ⅴ	撮影スケジュールを決める			
13	制作実習Ⅵ	撮影スケジュールを決める			
14	制作実習Ⅶ	撮影			
15	撮影実習Ⅰ	撮影			
16	編集実習Ⅰ	編集			
17	編集実習Ⅱ	編集			
18	編集実習Ⅲ	編集			
19	編集実習Ⅳ	仕上げ			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
企画内容35%、実技試験35%、出席率30%		個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	新潟・東京にてテレビ番組制作に30年以上携わっている。				

科目名	ドラマプロデュース				
担当教員	岩佐 陽一		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ知識の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ				
学習目標 (到達目標)	映像における多種多様な表現方法を発見し、自分の作品制作に活かせるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション	プロデューサーの仕事とは？ 映像における役割			
2	プロデュース概論Ⅰ	海外のプロデューサーと日本のプロデューサーの違いについて			
3	プロデュース概論Ⅱ	ドラマ企画書を見ながら、企画書の作成方法について学ぶ			
4	映像研究Ⅰ	アカデミー賞、カンヌ映画祭、ヴェネチア映画祭について解説、研究。			
5	映像研究Ⅱ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ①			
6	映像研究Ⅲ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ②			
7	映像研究Ⅳ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ③			
8	映画研究Ⅰ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）			
9	映画研究Ⅱ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）			
10	映画研究Ⅲ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）			
11	映画研究Ⅳ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（コメディ映画）			
12	映画研究Ⅴ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）			
13	映画研究Ⅵ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）			
14	映画研究Ⅶ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）			
15	映画研究Ⅷ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）			
16	映画研究Ⅸ	映画・テレビドラマ、実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）			
17	プロデュース実践Ⅰ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う①			
18	プロデュース実践Ⅱ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う②			
19	プロデュース実践Ⅲ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う③			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート70%、出席率30%			20回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。		
実務経験教員の経歴		フリーライター・編集者・プロデューサー。TV番組や映画等を企画・プロデュース			

②

## 国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	ドラマプロデュース				
担当教員	岩佐 陽一		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ知識の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ				
学習目標 (到達目標)	映像における多種多様な表現方法を発見し、自分の作品制作に活かせるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション	プロデューサーの仕事とは？ 映像における役割			
2	プロデュース概論Ⅰ	海外のプロデューサーと日本のプロデューサーの違いについて			
3	プロデュース概論Ⅱ	ドラマ企画書を見ながら、企画書の作成方法について学ぶ			
4	映像研究Ⅰ	アカデミー賞、カンヌ映画祭、ヴェネチア映画祭について解説、研究。			
5	映像研究Ⅱ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ①			
6	映像研究Ⅲ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ②			
7	映像研究Ⅳ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ③			
8	映画研究Ⅰ	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）			
9	映画研究Ⅱ	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）			
10	映画研究Ⅲ	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）			
11	映画研究Ⅳ	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディー映画）			
12	映画研究Ⅴ	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）			
13	映画研究VI	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）			
14	映画研究VII	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）			
15	映画研究VIII	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）			
16	映画研究IX	映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）			
17	プロデュース実践Ⅰ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う①			
18	プロデュース実践Ⅱ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う②			
19	プロデュース実践Ⅲ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う③			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート70%、出席率30%		20回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	フリーライター・編集者・プロデューサー。TV番組や映画等を企画・プロデュース				

科目名	ドラマプロデュース				
担当教員	岩佐 陽一		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ知識の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ				
学習目標 (到達目標)	映像における多種多様な表現方法を発見し、自分の作品制作に活かせるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	オリエンテーション	プロデューサーの仕事とは？ 映像における役割			
2	「デ」ュース概論Ⅰ	海外のプロデューサーと日本のプロデューサーの違いについて			
3	「デ」ュース概論Ⅱ	ドラマ企画書を見ながら、企画書の作成方法について学ぶ			
4	映像研究Ⅰ	アカデミー賞、カンヌ映画祭、ヴェネチア映画祭について解説、研究。			
5	映像研究Ⅱ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ①			
6	映像研究Ⅲ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ②			
7	映像研究Ⅳ	ドラマ制作の流れを通して、ドラマが放送されるまでの工程を学ぶ③			
8	映画研究Ⅰ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（アクション）			
9	映画研究Ⅱ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（恋愛映画）			
10	映画研究Ⅲ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（特撮映画）			
11	映画研究Ⅳ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（コメディー映画）			
12	映画研究Ⅴ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（プロモーション映像）			
13	映画研究Ⅵ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（コマーシャル研究）			
14	映画研究Ⅶ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（特撮映画）			
15	映画研究Ⅷ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（戦争映画）			
16	映画研究Ⅸ	映画・テレビドラマ・実験映像を見てレポートを提出する。（邦画作品）			
17	「デ」ュース実践Ⅰ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う①			
18	「デ」ュース実践Ⅱ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う②			
19	「デ」ュース実践Ⅲ	自分でプロデュースしたいドラマを取り上げ、プレゼンテーションを行う③			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート70%、出席率30%			20回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。		
実務経験教員の経歴		フリーライター・編集者・プロデューサー。TV番組や映画等を企画・プロデュース			

②

## 国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	CM/WEBムービー制作							
担当教員	内田雄也		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる							
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考						
1	発想トレーニング	1つのキーワードからどれだけ遠想出来るかをトレーニングする						
2	映像研究	CMの種類、トレンドを研究する						
3	企画	1つのテーマを決め、内容にそった企画内容を考えプレゼンテーションを行う						
4	企画Ⅱ	プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う						
5	企画Ⅲ	プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う						
6	企画Ⅳ	プレゼンテーションした内容の修正、および新案の提案を行う						
7	絵コンテ制作実習Ⅰ	企画内容にそった絵コンテ制作(絵コンテの書き方基礎)						
8	絵コンテ制作実習Ⅱ	企画内容にそった絵コンテ制作Ⅱ						
9	絵コンテ制作実習Ⅲ	企画内容にそった絵コンテ制作Ⅲ						
10	制作実習Ⅰ	企画内容から、撮影場所、キャスト、予算等を決める						
11	制作実習Ⅱ	撮影場所、キャスト、予算等の調整、交渉、許可取りを行う						
12	制作実習Ⅲ	撮影スケジュールを決める						
13	撮影実習Ⅰ	企画にそった撮影を行う						
14	撮影実習Ⅱ	企画にそった撮影を行う						
15	編集実習Ⅰ	撮影した素材を編集し、仕上げを行う						
16	編集実習Ⅱ	撮影した素材を編集し、仕上げを行う						
17	編集実習Ⅲ	撮影した素材を編集し、仕上げを行う						
18	編集実習Ⅳ	撮影した素材を編集し、仕上げを行う						
19	編集実習Ⅴ	撮影した素材を編集し、仕上げを行う						
20	講評	講評						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意					
企画内容35%、実技試験35%、出席率30%			個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	テレビCMを多数制作。ディレクターとして35年以上の経歴を持つ							

(2)

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	CM/WEBムービー制作				
担当教員	内田雄也		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる 4. CM作成がメインとなる（様々なCMの違いを作成しながら学ぶ）				
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	作品制作① 商品	対象商品のCM制作について企画書制作			
2	作品制作① 商品	画コンテ・台本作成			
3	作品制作① 商品	撮影・編集・MA			
4	作品制作① 商品	試写・講評			
5	作品制作② 企業	対象企業のCM制作について企画書制作			
6	作品制作② 企業	画コンテ・台本作成			
7	作品制作② 企業	撮影・編集・MA			
8	作品制作② 企業	試写・講評			
9	作品制作③ イメージCM	イメージCM制作について企画書制作			
10	作品制作③ イメージCM	画コンテ・台本作成			
11	作品制作③ イメージCM	撮影・編集・MA			
12	作品制作③ イメージCM	試写・講評			
13	作品制作④ 情報CM	情報CM制作について企画書制作			
14	作品制作④ 情報CM	画コンテ・台本作成			
15	作品制作④ 情報CM	撮影			
16	作品制作④ 情報CM	撮影			
17	作品制作④ 情報CM	編集・MA			
18	作品制作④ 情報CM	編集・MA			
19	作品制作④ 情報CM	仕上げ			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
作品完成度80%、授業態度20%		個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。			
実務経験教員の経歴	テレビCMを多数制作。ディレクターとして35年以上の経歴を持つ				

②

## 国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	CM/WEBムービー制作							
担当教員	内田雄也		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 柔軟な発想力を鍛える 2. 発想したものを、企画書にまとめる 3. 企画書にまとめたものを映像にしてみる 4. CM作成がメインとなる（様々なCMの違いを作成しながら学ぶ）							
学習目標 (到達目標)	多くの人に見てもらえる映像を企画し、形に出来る。CMの企画から制作、納品方法まで出来るようになる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考						
1	作品制作① 商品	対象商品のCM制作について企画書制作						
2	作品制作① 商品	画コンテ・台本作成						
3	作品制作① 商品	撮影・編集・MA						
4	作品制作① 商品	試写・講評						
5	作品制作② 企業	対象企業のCM制作について企画書制作						
6	作品制作② 企業	画コンテ・台本作成						
7	作品制作② 企業	撮影・編集・MA						
8	作品制作② 企業	試写・講評						
9	作品制作③ イメージCM	イメージCM制作について企画書制作						
10	作品制作③ イメージCM	画コンテ・台本作成						
11	作品制作③ イメージCM	撮影・編集・MA						
12	作品制作③ イメージCM	試写・講評						
13	作品制作④ 情報CM	情報CM制作について企画書制作						
14	作品制作④ 情報CM	画コンテ・台本作成						
15	作品制作④ 情報CM	撮影						
16	作品制作④ 情報CM	撮影						
17	作品制作④ 情報CM	編集・MA						
18	作品制作④ 情報CM	編集・MA						
19	作品制作④ 情報CM	仕上げ						
20	講評	講評						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意					
作品完成度80%、授業態度20%			個人制作ではなく、グループワークとして実習に臨む。人の好き嫌いでは無く、仕事として積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、完成まで責任を持って参加する事。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	テレビCMを多数制作。ディレクターとして35年以上の経験を持つ							

科目名	照明実習				
担当教員	小峯 隆男		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る				
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図解・実践 新版 映像ライティング				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	照明基礎Ⅰ	照明機材の種類、名前を学習する			
2	照明基礎Ⅱ	照明機材の種類、名前を学習する			
3	照明基礎Ⅲ	電圧の計算方法を学ぶ			
4	照明基礎Ⅳ	基本的な照明設計の考え方を学ぶ			
5	照明基礎実践Ⅰ	基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
6	照明基礎実践Ⅱ	基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
7	照明基礎実践Ⅲ	基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
8	映像照明基礎実践Ⅰ	朝の照明を作成してみる			
9	映像照明基礎実践Ⅱ	射し込みを表現してみる			
10	照明基礎Ⅴ	様々な場所の光を数値化してみる			
11	映像照明基礎実践Ⅲ	夕焼けを作成してみる			
12	映像照明基礎実践Ⅳ	夜を表現してみる			
13	映像照明基礎実践Ⅴ	感情表現を表してみる			
14	映像照明基礎実践Ⅵ	感情表現を表してみる			
15	映像照明基礎実践Ⅶ	人物のライティングをしてみる			
16	照明実践Ⅰ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
17	照明実践Ⅱ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
18	照明実践Ⅲ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
19	照明実践Ⅳ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。		
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師			

科目名	照明実習				
担当教員	小峯 瞳男		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 照明機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な照明設計の考え方を学ぶ 3. 様々なシチュエーションの照明を作る				
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	図解・実践 新版 映像ライティング				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	照明基礎Ⅰ	照明機材の種類、名前を学習する			
2	照明基礎Ⅱ	照明機材の種類、名前を学習する			
3	照明基礎Ⅲ	電圧の計算方法を学ぶ			
4	照明基礎Ⅳ	基本的な照明設計の考え方を学ぶ			
5	照明基礎実践Ⅰ	基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
6	照明基礎実践Ⅱ	基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
7	照明基礎実践Ⅲ	基本的な照明設計に基づいて、照明をセッティングしてみる			
8	映像照明基礎実践Ⅰ	朝の照明を作成してみる			
9	映像照明基礎実践Ⅱ	射し込みを表現してみる			
10	照明基礎Ⅴ	様々な場所の光を数値化してみる			
11	映像照明基礎実践Ⅲ	夕焼けを作成してみる			
12	映像照明基礎実践Ⅳ	夜を表現してみる			
13	映像照明基礎実践Ⅴ	感情表現を表してみる			
14	映像照明基礎実践Ⅵ	感情表現を表してみる			
15	映像照明基礎実践Ⅶ	人物のライティングをしてみる			
16	照明実践Ⅰ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
17	照明実践Ⅱ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
18	照明実践Ⅲ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
19	照明実践Ⅳ	学んだ照明知識を活かして、短編映像を制作する			
20	講評	講評			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実技試験70%、出席率30%		積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師				

科目名	照明実習						
担当教員	小峯 瞳男		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する						
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	照明演出基礎Ⅰ		演出に基づいた照明の考え方Ⅰ				
2	照明演出基礎Ⅱ		演出に基づいた照明の考え方Ⅱ				
3	照明演出基礎Ⅲ		撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
4	照明演出基礎実践Ⅰ		撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
5	照明演出基礎実践Ⅱ		撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ				
6	照明演出基礎実践Ⅲ		デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する				
7	照明演出基礎実践Ⅳ		デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する				
8	映像照明基礎実践Ⅰ		監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる				
9	映像照明基礎実践Ⅱ		監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる				
10	映像照明基礎実践Ⅲ		監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる				
11	照明基礎Ⅴ		様々な場所の光を数値化してみる				
12	照明基礎Ⅵ		様々な場所の光を数値化してみる				
13	映像照明基礎実践Ⅳ		役者の心理を考え、照明で表現してみる				
14	映像照明基礎実践Ⅴ		役者の心理を考え、照明で表現してみる				
15	映像照明基礎実践Ⅵ		役者の心理を考え、照明で表現してみる				
16	照明実践Ⅰ		シナリオを基にした短編映像を制作する				
17	照明実践Ⅱ		シナリオを基にした短編映像を制作する				
18	照明実践Ⅲ		シナリオを基にした短編映像を制作する				
19	照明実践Ⅳ		シナリオを基にした短編映像を制作する				
20	講評会		講評会				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
実務経験教員の経歴	「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師						

科目名	照明実習				
担当教員	小峯 翔男		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演出に応じた照明設計の考え方を学ぶ 2. 様々なシチュエーションの照明を作る 3. 短編～中編映像を制作する				
学習目標 (到達目標)	監督の意図した世界を表現出来る照明スタッフを育成する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	照明演出基礎Ⅰ	演出に基づいた照明の考え方Ⅰ			
2	照明演出基礎Ⅱ	演出に基づいた照明の考え方Ⅱ			
3	照明演出基礎Ⅲ	撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ			
4	照明演出基礎実践Ⅰ	撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ			
5	照明演出基礎実践Ⅱ	撮影スタジオを使用し様々な照明演出方法を学ぶ			
6	照明演出基礎実践Ⅲ	デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する			
7	照明演出基礎実践Ⅳ	デジタル一眼レフを使用し、様々な状況で撮影・照明を検証する			
8	映像照明基礎実践Ⅰ	役者の心理を考え、照明で表現してみる			
9	映像照明基礎実践Ⅱ	役者の心理を考え、照明で表現してみる			
10	映像照明基礎実践Ⅲ	監督の意図した演出を考え、照明で表現してみる			
11	照明基礎Ⅴ	様々な場所の光を数値化してみる			
12	照明基礎Ⅵ	様々な場所の光を数値化してみる			
13	映像照明基礎実践Ⅳ	役者の心理を考え、照明で表現してみる			
14	映像照明基礎実践Ⅴ	役者の心理を考え、照明で表現してみる			
15	映像照明基礎実践Ⅵ	役者の心理を考え、照明で表現してみる			
16	照明実践Ⅰ	シナリオを基にした短編映像を制作する			
17	照明実践Ⅱ	シナリオを基にした短編映像を制作する			
18	照明実践Ⅲ	シナリオを基にした短編映像を制作する			
19	照明実践Ⅳ	シナリオを基にした短編映像を制作する			
20	講評会	講評会			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実技試験70%、出席率30%		積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。			
実務経験教員の経歴		「仮面ライダーシリーズ」等のCM制作現場を中心とする照明技師			

(2)

## 国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映画制作								
担当教員	広川 一義		実務授業の有無		○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期				
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間				
授業概要、目的、授業の進め方	1. 学生自身が自由な発想で映像制作が出来る 2. 企画したものを締切までに形にしてみる 3. 構成力・発想力・現場適応能力を鍛える								
学習目標 (到達目標)	グループワーク・個人制作を通し作品制作の過程を理解する								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布								
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考							
1	映像作品制作Ⅰ	班編成→部署決め							
2	映像作品制作Ⅱ	企画							
3	映像作品制作Ⅲ	企画							
4	映像作品制作Ⅳ	企画							
5	映像作品制作Ⅴ	企画提出→プレゼンテーションⅠ							
6	映像作品制作Ⅵ	企画提出→プレゼンテーションⅡ							
7	映像作品制作Ⅶ	撮影スケジュール案を提出Ⅰ							
8	映像作品制作Ⅷ	撮影スケジュール案を提出Ⅱ							
9	映像作品制作Ⅸ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定							
10	映像作品制作Ⅹ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定							
11	映像作品制作Ⅺ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定							
12	映像作品制作実践Ⅰ	撮影準備開始							
13	映像作品制作実践Ⅱ	撮影本番							
14	映像作品制作実践Ⅲ	撮影本番							
15	映像作品制作実践Ⅳ	撮影本番							
16	映像作品制作実践Ⅴ	撮影終了→編集							
17	映像作品制作実践Ⅵ	編集							
18	映像作品制作実践Ⅶ	編集							
19	映像作品制作実践Ⅷ	編集							
20	講評	講評							
評価方法・成績評価基準		履修上の注意							
映像制作70%、出席率30%		グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる								

(2)

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映画制作								
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○					
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期				
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間				
授業概要、目的、授業の進め方	1. 学生自身が自由な発想で映像制作が出来る 2. 企画したものを締切までに形にしてみる 3. 構成力・発想力・現場適応能力を鍛える								
学習目標 (到達目標)	グループワーク・個人制作を通し作品制作の過程を理解する								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布								
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考							
1	映像作品制作Ⅰ	班編成→部署決め							
2	映像作品制作Ⅱ	企画							
3	映像作品制作Ⅲ	企画							
4	映像作品制作Ⅳ	企画							
5	映像作品制作Ⅴ	企画提出→プレゼンテーションⅠ							
6	映像作品制作Ⅵ	企画提出→プレゼンテーションⅡ							
7	映像作品制作Ⅶ	撮影スケジュール案を提出Ⅰ							
8	映像作品制作Ⅷ	撮影スケジュール案を提出Ⅱ							
9	映像作品制作Ⅸ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定							
10	映像作品制作Ⅹ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定							
11	映像作品制作Ⅺ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定							
12	映像作品制作実践Ⅰ	撮影準備開始							
13	映像作品制作実践Ⅱ	撮影本番							
14	映像作品制作実践Ⅲ	撮影本番							
15	映像作品制作実践Ⅳ	撮影本番							
16	映像作品制作実践Ⅴ	撮影終了→編集							
17	映像作品制作実践Ⅵ	編集							
18	映像作品制作実践Ⅶ	編集							
19	映像作品制作実践Ⅷ	編集							
20	講評	講評							
評価方法・成績評価基準		履修上の注意							
映像制作70%、出席率30%		グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる								

科目名	映画制作								
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○					
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期				
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間				
授業概要、目的、授業の進め方	1. 学生自身が自由な発想で映像制作が出来る 2. 企画したものを締切までに形にしてみる 3. 構成力・発想力・現場適応能力を鍛える								
学習目標 (到達目標)	グループワーク・個人制作を通し作品制作の過程を理解する								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布								
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考							
1	映像作品制作Ⅰ	班編成→部署決め							
2	映像作品制作Ⅱ	企画							
3	映像作品制作Ⅲ	企画							
4	映像作品制作Ⅳ	企画							
5	映像作品制作Ⅴ	企画提出→プレゼンテーションⅠ							
6	映像作品制作Ⅵ	企画提出→プレゼンテーションⅡ							
7	映像作品制作Ⅶ	撮影スケジュール案を提出Ⅰ							
8	映像作品制作Ⅷ	撮影スケジュール案を提出Ⅱ							
9	映像作品制作Ⅸ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定							
10	映像作品制作Ⅹ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定							
11	映像作品制作Ⅺ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定							
12	映像作品制作実践Ⅰ	撮影準備開始							
13	映像作品制作実践Ⅱ	撮影本番							
14	映像作品制作実践Ⅲ	撮影本番							
15	映像作品制作実践Ⅳ	撮影本番							
16	映像作品制作実践Ⅴ	撮影終了→編集							
17	映像作品制作実践Ⅵ	編集							
18	映像作品制作実践Ⅶ	編集							
19	映像作品制作実践Ⅷ	編集							
20	講評	講評							
評価方法・成績評価基準		履修上の注意							
映像制作70%、出席率30%		グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる								

(2)

国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	映画制作							
担当教員	広川 一義		実務授業の有無		○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 学生自身が自由な発想で映像制作が出来る 2. 企画したものを締切までに形にしてみる 3. 構成力・発想力・現場適応能力を鍛える							
学習目標 (到達目標)	グループワーク・個人制作を通し作品制作の過程を理解する							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考						
1	映像作品制作Ⅰ	班編成→部署決め						
2	映像作品制作Ⅱ	企画						
3	映像作品制作Ⅲ	企画						
4	映像作品制作Ⅳ	企画						
5	映像作品制作Ⅴ	企画提出→プレゼンテーションⅠ						
6	映像作品制作Ⅵ	企画提出→プレゼンテーションⅡ						
7	映像作品制作Ⅶ	撮影スケジュール案を提出Ⅰ						
8	映像作品制作Ⅷ	撮影スケジュール案を提出Ⅱ						
9	映像作品制作Ⅸ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定						
10	映像作品制作Ⅹ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の選定						
11	映像作品制作Ⅺ	予算、ロケ地、キャスト、スケジュール等の最終決定						
12	映像作品制作実践Ⅰ	撮影準備開始						
13	映像作品制作実践Ⅱ	撮影本番						
14	映像作品制作実践Ⅲ	撮影本番						
15	映像作品制作実践Ⅳ	撮影本番						
16	映像作品制作実践Ⅴ	撮影終了→編集						
17	映像作品制作実践Ⅵ	編集						
18	映像作品制作実践Ⅶ	編集						
19	映像作品制作実践Ⅷ	編集						
20	講評	講評						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意					
映像制作70%、出席率30%			グループワークとして実習に臨む。自ら意見をのべ積極的にアイデアを出し実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、企画の実現まで責任を持って参加する事。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	撮影技術									
担当教員	長谷川新		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期					
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間					
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化									
学習目標 (到達目標)	撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	撮影基礎の復習Ⅰ			撮影機材の原理・使用方法Ⅰ						
2	撮影基礎の復習Ⅱ			撮影機材の原理・使用方法Ⅱ						
3	撮影実習・技法Ⅰ			特殊機材を使用しての実習Ⅰ						
4	撮影実習・技法Ⅱ			特殊機材を使用しての実習Ⅱ						
5	撮影実習・技法Ⅲ			特殊機材を使用しての実習Ⅲ						
6	撮影実習・技法Ⅳ			特殊機材を使用しての実習Ⅳ						
7	撮影実習・技法Ⅴ			特殊機材を使用しての実習Ⅴ						
8	撮影実習・技法Ⅵ			特殊機材を使用しての実習Ⅵ						
9	撮影実習Ⅰ			既存の映像の考察及び再現Ⅰ						
10	撮影実習Ⅱ			既存の映像の考察及び再現Ⅱ						
11	撮影実習Ⅲ			既存の映像の考察及び再現Ⅲ						
12	撮影実習Ⅳ			既存の映像の考察及び再現Ⅳ						
13	映像制作実習Ⅰ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ						
14	映像制作実習Ⅱ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ						
15	映像制作実習Ⅲ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ						
16	映像制作実習Ⅳ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ						
17	映像制作実習Ⅴ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ						
18	映像制作実習Ⅵ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ						
19	映像制作実習Ⅶ			学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ						
20	講評			講評・テスト						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諒めず責任を持って参加する事。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴	新潟で20年以上カメラマンとして活躍									

科目名	撮影技術							
担当教員	長谷川新		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化							
学習目標 (到達目標)	撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考					
1	撮影基礎の復習Ⅰ		撮影機材の原理・使用方法Ⅰ					
2	撮影基礎の復習Ⅱ		撮影機材の原理・使用方法Ⅱ					
3	撮影実習・技法Ⅰ		特殊機材を使用しての実習Ⅰ					
4	撮影実習・技法Ⅱ		特殊機材を使用しての実習Ⅱ					
5	撮影実習・技法Ⅲ		特殊機材を使用しての実習Ⅲ					
6	撮影実習・技法Ⅳ		特殊機材を使用しての実習Ⅳ					
7	撮影実習・技法Ⅴ		特殊機材を使用しての実習Ⅴ					
8	撮影実習・技法Ⅵ		特殊機材を使用しての実習Ⅵ					
9	撮影実習Ⅰ		既存の映像の考察及び再現Ⅰ					
10	撮影実習Ⅱ		既存の映像の考察及び再現Ⅱ					
11	撮影実習Ⅲ		既存の映像の考察及び再現Ⅲ					
12	撮影実習Ⅳ		既存の映像の考察及び再現Ⅳ					
13	映像制作実習Ⅰ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ					
14	映像制作実習Ⅱ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ					
15	映像制作実習Ⅲ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ					
16	映像制作実習Ⅳ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ					
17	映像制作実習Ⅴ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ					
18	映像制作実習Ⅵ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ					
19	映像制作実習Ⅶ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ					
20	講評		講評・テスト					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意					
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、説めず責任を持って参加する事。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	新潟で20年以上カメラマンとして活躍							

科目名	撮影技術						
担当教員	長谷川新		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 撮影基礎を復習。 2. 特殊機材を使用しての実習 3. 上記を踏まえ、ストーリーの映像化						
学習目標 (到達目標)	撮影現場で他者とのイメージが共有出来、より正確に具現化する						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	撮影基礎の復習Ⅰ		撮影機材の原理・使用方法Ⅰ				
2	撮影基礎の復習Ⅱ		撮影機材の原理・使用方法Ⅱ				
3	撮影実習・技法Ⅰ		特殊機材を使用しての実習Ⅰ				
4	撮影実習・技法Ⅱ		特殊機材を使用しての実習Ⅱ				
5	撮影実習・技法Ⅲ		特殊機材を使用しての実習Ⅲ				
6	撮影実習・技法Ⅳ		特殊機材を使用しての実習Ⅳ				
7	撮影実習・技法Ⅴ		特殊機材を使用しての実習Ⅴ				
8	撮影実習・技法Ⅵ		特殊機材を使用しての実習Ⅵ				
9	撮影実習Ⅰ		既存の映像の考察及び再現Ⅰ				
10	撮影実習Ⅱ		既存の映像の考察及び再現Ⅱ				
11	撮影実習Ⅲ		既存の映像の考察及び再現Ⅲ				
12	撮影実習Ⅳ		既存の映像の考察及び再現Ⅳ				
13	映像制作実習Ⅰ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅰ				
14	映像制作実習Ⅱ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅱ				
15	映像制作実習Ⅲ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅲ				
16	映像制作実習Ⅳ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅳ				
17	映像制作実習Ⅴ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅴ				
18	映像制作実習Ⅵ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅵ				
19	映像制作実習Ⅶ		学生シナリオを元にした映像制作実習Ⅶ				
20	講評		講評・テスト				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			安全かつ素早く特殊機材のセッティングおよび操作が学生自身で出来る事。学生自身が最後までシナリオを書き、尚且、映像作品として完成させる事。全ての実習項目に出席し、諦めず責任を持って参加する事。				
実務経験教員の経歴		新潟で20年以上カメラマンとして活躍					

科目名	撮影・編集基礎								
担当教員	榎本 昭紀		実務授業の有無	○					
対象学科	映像プロフェッショナル	対象学年	1	開講時期	前期・後期				
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間				
授業概要、目的、授業の進め方	1. Macintoshの操作方法を知る 2. Final Cut Proの操作方法を学ぶ 3. Final Cut Proで映像制作を行う 4. 基礎的な撮影方法を知る								
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。								
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布								
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考							
1	Macintosh操作基礎	Macintoshの操作方法、アカウントを作成してみる							
2	ノンリニア編集基礎Ⅰ	Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）							
3	ノンリニア編集基礎Ⅱ	Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）							
4	ノンリニア編集基礎Ⅲ	Final Cut Proの基本的な操作方法を学ぶ（各機能、画面構成、データ管理等）							
5	編集基礎Ⅰ	カット、シーンの考え方を学ぶ							
6	編集基礎Ⅱ	カット、シーンの繋ぎ方を学ぶ							
7	編集基礎Ⅲ	Final Cut Proを使用した音の整音方法を学ぶ							
8	編集基礎Ⅳ	モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる							
9	編集基礎Ⅴ	モーションを使用したタイトルロゴを作成してみる							
10	撮影実習Ⅰ	状況に応じた撮影機材の選定方法							
11	撮影実習Ⅱ	状況に応じた撮影機材の選定方法および撮影機材の設置方法							
12	撮影実習Ⅲ	画角の考え方、撮影方法！							
13	編集実践Ⅰ	短編映像制作（撮影）							
14	編集実践Ⅱ	短編映像制作（撮影）							
15	編集実践Ⅲ	短編映像制作（撮影）							
16	編集実践Ⅳ	短編映像制作（撮影）							
17	編集実践Ⅴ	短編映像制作（撮影）							
18	編集実践VI	短編映像制作（オールラッシュ）							
19	編集実践VII	仕上げ：編集データの書き出し、カット・リスト作成、コンフォーム、グレーディング							
20	講評	講評							
評価方法・成績評価基準		履修上の注意							
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%		積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、短編映像作品を完成させ提出すること。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。									
実務経験教員の経歴	農水協 産業用ドローンの指導員、ドローンパイロット								

科目名	MV・PV実習						
担当教員	カトウカズヤ		実務授業の有無	○			
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本的なミュージックビデオ制作を習得する 2. ミュージックビデオを学生自ら企画・撮影・編集出来るようになる 3. カット割りや高度な編集技術を習得する						
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	授業前ガイダンス		授業の目的およびスケジュールの確認				
2	自己紹介（講師・学生）		学生及び講師の自己紹介および、好きなミュージックビデオをお互いに紹介する				
3	ミュージックビデオ研究Ⅰ		洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究				
4	ミュージックビデオ研究Ⅱ		邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究				
5	制作実習Ⅰ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（リップシンク）				
6	制作実習Ⅱ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（スロー撮影）				
7	制作実習Ⅲ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（ストップモーション撮影）				
8	制作実習Ⅳ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）				
9	制作実習Ⅴ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）				
10	前期講評		前期講評				
11	ミュージックビデオ研究Ⅲ		洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究				
12	ミュージックビデオ研究Ⅳ		洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究				
13	ミュージックビデオ研究Ⅴ		邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究				
14	ミュージックビデオ研究Ⅵ		邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究				
15	制作実習Ⅵ		ミュージックビデオ企画				
16	制作実習Ⅶ		キャスティング・ロケーションハンティング				
17	制作実習Ⅷ		撮影				
18	制作実習Ⅸ		編集				
19	制作実習Ⅹ		編集				
20	後期講評		後期講評				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、短編映像作品を完成させ提出すること。				
実務経験教員の経歴	東京にて30年以上数々のMV・PVを制作						

MV・PV実習								
科目名								
担当教員	カトウカズヤ	実務授業の有無	○					
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本的なミュージックビデオ制作を習得する 2. ミュージックビデオを学生自ら企画・撮影・編集出来るようになる 3. カット割りや高度な編集技術を習得する							
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考					
1	授業前ガイダンス		授業の目的およびスケジュールの確認					
2	自己紹介（講師・学生）		学生及び講師の自己紹介および、好きなミュージックビデオをお互いに紹介する					
3	ミュージックビデオ研究Ⅰ		洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究					
4	ミュージックビデオ研究Ⅱ		邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究					
5	制作実習Ⅰ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（リップシンク）					
6	制作実習Ⅱ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（スロー撮影）					
7	制作実習Ⅲ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（ストップモーション撮影）					
8	制作実習Ⅳ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）					
9	制作実習Ⅴ		楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）					
10	前期講評		前期講評					
11	ミュージックビデオ研究Ⅲ		洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究					
12	ミュージックビデオ研究Ⅳ		洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究					
13	ミュージックビデオ研究Ⅴ		邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究					
14	ミュージックビデオ研究Ⅵ		邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究					
15	制作実習Ⅵ		ミュージックビデオ企画					
16	制作実習Ⅶ		キャスティング・ロケーションハンティング					
17	制作実習Ⅷ		撮影					
18	制作実習Ⅸ		編集					
19	制作実習Ⅹ		編集					
20	後期講評		後期講評					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意					
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	東京にて30年以上数々のMV・PVを制作							

科目名	MV・PV実習				
担当教員	カトウカズヤ		実務授業の有無	○	
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本的なミュージックビデオ制作を習得する 2. ミュージックビデオを学生自ら企画・撮影・編集出来るようになる 3. カット割りや高度な編集技術を習得する				
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	授業前ガイダンス	授業の目的およびスケジュールの確認			
2	自己紹介（講師・学生）	学生及び講師の自己紹介および、好きなミュージックビデオをお互いに紹介する			
3	ミュージックビデオ研究Ⅰ	洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
4	ミュージックビデオ研究Ⅱ	邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
5	制作実習Ⅰ	楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（リップシンク）			
6	制作実習Ⅱ	楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（スロー撮影）			
7	制作実習Ⅲ	楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（ストップモーション撮影）			
8	制作実習Ⅳ	楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）			
9	制作実習Ⅴ	楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）			
10	前期講評	前期講評			
11	ミュージックビデオ研究Ⅲ	洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
12	ミュージックビデオ研究Ⅳ	洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
13	ミュージックビデオ研究Ⅴ	邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
14	ミュージックビデオ研究Ⅵ	邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
15	制作実習Ⅵ	ミュージックビデオ企画			
16	制作実習Ⅶ	キャスティング・ロケーションハンティング			
17	制作実習Ⅷ	撮影			
18	制作実習Ⅸ	編集			
19	制作実習Ⅹ	編集			
20	後期講評	後期講評			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%		積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	東京にて30年以上数々のMV・PVを制作				

MV・PV実習							
科目名	担当教員		実務授業の有無	○			
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	40時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 基本的なミュージックビデオ制作を習得する 2. ミュージックビデオを学生自ら企画・撮影・編集出来るようになる 3. カット割りや高度な編集技術を習得する						
学習目標 (到達目標)	ノンリニア編集の基礎を踏まえ、タイトル、短編映像制作を通してFinal Cut Proの使い方を学習する。他の技術パートとの関連性を学び、編集の重要性を意識する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	授業前ガイダンス			授業の目的およびスケジュールの確認			
2	自己紹介（講師・学生）			学生及び講師の自己紹介および、好きなミュージックビデオをお互いに紹介する			
3	ミュージックビデオ研究Ⅰ			洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
4	ミュージックビデオ研究Ⅱ			邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
5	制作実習Ⅰ			楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（リップシンク）			
6	制作実習Ⅱ			楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（スロー撮影）			
7	制作実習Ⅲ			楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（ストップモーション撮影）			
8	制作実習Ⅳ			楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）			
9	制作実習Ⅴ			楽曲に合わせたミュージックビデオ制作（総合）			
10	前期講評			前期講評			
11	ミュージックビデオ研究Ⅲ			洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
12	ミュージックビデオ研究Ⅳ			洋楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
13	ミュージックビデオ研究Ⅴ			邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
14	ミュージックビデオ研究Ⅵ			邦楽におけるすぐれたミュージックビデオの紹介・研究			
15	制作実習Ⅵ			ミュージックビデオ企画			
16	制作実習Ⅶ			キャスティング・ロケーションハンティング			
17	制作実習Ⅷ			撮影			
18	制作実習Ⅸ			編集			
19	制作実習Ⅹ			編集			
20	後期講評			後期講評			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験35%、映像制作35%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、再現映像と、短編映像作品を完成させ提出すること。				
実務経験教員の経歴	東京にて30年以上数々のMV・PVを制作						

科目名	配信						
担当教員	菅家 将次		実務授業の有無	○			
対象学科	映像クロマニクス科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3. イベント等の配信を行ってみる						
学習目標 (到達目標)	学生自身で配信のイベント企画、実施						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	配信基礎Ⅰ		配信機材の種類、名前を学習する				
2	配信基礎Ⅱ		配信機材の仕組み、使用方法を学習する				
3	配信基礎Ⅲ		配信設備の組み立てを行う				
4	配信基礎Ⅳ		WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ				
5	配信基礎Ⅴ		配信に必要なソフトウェアの知識を得る				
6	配信基礎Ⅵ		配信に必要なソフトウェアの知識を得る				
7	配信基礎Ⅶ		配信に必要なソフトウェアの知識を得る				
8	配信基礎実践Ⅰ		基本的な配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる				
9	配信基礎実践Ⅱ		配信イベントを企画するⅠ				
10	配信基礎実践Ⅲ		配信イベントを企画するⅡ				
11	配信基礎実践Ⅳ		企画したイベントの配信を行う				
12	配信基礎Ⅷ		機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する				
13	配信基礎Ⅸ		機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う				
14	配信基礎Ⅹ		複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ				
15	配信基礎Ⅺ		複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅡ				
16	配信基礎実践Ⅴ		配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる				
17	配信基礎実践Ⅵ		配信イベントを企画するⅢ				
18	配信基礎実践Ⅶ		配信イベントを企画するⅣ				
19	配信基礎実践Ⅷ		企画したイベントの配信を行う				
20	テスト・評価		配信機材の使用方法、状況に応じた対応力等総合的に判断				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事				
実務経験教員の経歴	新潟での様々なイベント、配信スタッフ						

科目名	配信						
担当教員	菅家 将次		実務授業の有無	○			
対象学科	沙恵フロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3. イベント等の配信を行ってみる						
学習目標 (到達目標)	学生自身で配信のイベント企画、実施						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	配信基礎Ⅰ			配信機材の種類、名前を学習する			
2	配信基礎Ⅱ			配信機材の仕組み、使用方法を学習する			
3	配信基礎Ⅲ			配信設備の組み立てを行う			
4	配信基礎Ⅳ			WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ			
5	配信基礎Ⅴ			配信に必要なソフトウェアの知識を得る			
6	配信基礎Ⅵ			配信に必要なソフトウェアの知識を得る			
7	配信基礎Ⅶ			配信に必要なソフトウェアの知識を得る			
8	配信基礎実践Ⅰ			基本的な配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる			
9	配信基礎実践Ⅱ			配信イベントを企画する！			
10	配信基礎実践Ⅲ			配信イベントを企画するⅡ			
11	配信基礎実践Ⅳ			企画したイベントの配信を行う			
12	配信基礎Ⅷ			機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する			
13	配信基礎Ⅸ			機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う			
14	配信基礎Ⅹ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ			
15	配信基礎Ⅺ			複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅡ			
16	配信基礎実践Ⅴ			配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる			
17	配信基礎実践Ⅵ			配信イベントを企画するⅢ			
18	配信基礎実践Ⅶ			配信イベントを企画するⅣ			
19	配信基礎実践Ⅷ			企画したイベントの配信を行う			
20	テスト・評価			配信機材の使用方法、状況に応じた対応力等総合的に判断			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事				
実務経験教員の経歴	新潟での様々なイベント、配信スタッフ						

科目名	身体表現							
担当教員	矢頭 熊		実務授業の有無		○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演技の基礎を通し、身体を使ったコミュニケーションの技術を身に付ける。 2. 言葉のみだけではなく、身体による表現力を高め、自己アピール力を高める							
学習目標 (到達目標)	言葉のみだけではなく、身体による表現力を高め、自己アピール力を高める							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	自己紹介Ⅰ			お互いを知ることから始め、自分と他者との関係性を感じる				
2	自己紹介Ⅱ			お互いを知ることから始め、自分と他者との関係性を感じる				
3	身体表現Ⅰ			五感をフルに使用し、自分と相手を意識的に捉える				
4	身体表現Ⅱ			五感をフルに使用し、自分と相手を意識的に捉える				
5	身体表現Ⅲ			言葉を使用せず、他者とのコミュニケーションを取る				
6	身体表現Ⅳ			言葉を使用せず、他者とのコミュニケーションを取る				
7	身体表現Ⅴ			表情に焦点をあて他者とコミュニケーションを取る				
8	身体表現Ⅵ			表情に焦点をあて他者とコミュニケーションを取る				
9	身体表現Ⅶ			身体の動きに焦点をあて他者とコミュニケーションを取る				
10	講評			講評				
11	プレゼンテーションⅠ			人前で自分の好きな事、物を身体表現を通して伝えてみる				
12	プレゼンテーションⅡ			人前で自分の好きな事、物を身体表現を通して伝えてみる				
13	身体表現Ⅰ			身体表現を使用した一対一のコミュニケーション				
14	身体表現Ⅱ			身体表現を使用した一対一のコミュニケーション				
15	身体表現Ⅲ			声と言葉を使用した、他者とのコミュニケーション				
16	身体表現Ⅳ			声と言葉を使用した、他者とのコミュニケーション				
17	身体表現Ⅴ			身体表現と言葉を使った複合的な演技を組み立ててみる				
18	身体表現Ⅵ			身体表現と言葉を使った複合的な演技を組み立ててみる				
19	身体表現Ⅶ			発表				
20	講評			講評				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・内部だけでなく外部の協力を得て一つの形を完成させる事				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師							

科目名	身体表現						
担当教員	矢頭 熊		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 演技の基礎を通し、身体を使ったコミュニケーションの技術を身に付ける。 2. 言葉のみだけではなく、身体による表現力を高め、自己アピール力を高める						
学習目標 (到達目標)	言葉のみだけではなく、身体による表現力を高め、自己アピール力を高める						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	自己紹介Ⅰ			お互いを知ることから始め、自分と他者との関係性を感じる			
2	自己紹介Ⅱ			お互いを知ることから始め、自分と他者との関係性を感じる			
3	身体表現Ⅰ			五感をフルに使用し、自分と相手を意識的に捉える			
4	身体表現Ⅱ			五感をフルに使用し、自分と相手を意識的に捉える			
5	身体表現Ⅲ			言葉を使用せず、他者とのコミュニケーションを取る			
6	身体表現Ⅳ			言葉を使用せず、他者とのコミュニケーションを取る			
7	身体表現Ⅴ			表情に焦点をあて他者とコミュニケーションを取る			
8	身体表現Ⅵ			表情に焦点をあて他者とコミュニケーションを取る			
9	身体表現Ⅶ			身体の動きに焦点をあて他者とコミュニケーションを取る			
10	講評			講評			
11	プレゼンテーションⅠ			人前で自分の好きな事、物を身体表現を通して伝えてみる			
12	プレゼンテーションⅡ			人前で自分の好きな事、物を身体表現を通して伝えてみる			
13	身体表現Ⅰ			身体表現を使用した一対一のコミュニケーション			
14	身体表現Ⅱ			身体表現を使用した一対一のコミュニケーション			
15	身体表現Ⅲ			声と言葉を使用した、他者とのコミュニケーション			
16	身体表現Ⅳ			声と言葉を使用した、他者とのコミュニケーション			
	身体表現Ⅴ			身体表現と言葉を使った複合的な演技を組み立ててみる			
	身体表現Ⅵ			身体表現と言葉を使った複合的な演技を組み立ててみる			
	身体表現Ⅶ			発表			
	講評			講評			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
評価50%、制作過程での進歩状況20%、学習意欲30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			・映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・内部だけでなく外部の協力を得て一つの形を完成させる事				
実務経験教員の経歴	演劇業界にて実績あり。当校専任講師						

科目名	業界研究						
担当教員	本田 元治		実務授業の有無	○			
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像業界の全体像や仕組みを知る 2. 映像業界を目指すにあたり、何が自分に必要なかを考える 3. 映像業界を研究し自己理解を深める						
学習目標 (到達目標)	映像業界の仕事についての基礎的な知識を得る事により、将来の目標について考え、進路の方向性を明らかにする						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	ガイダンス		業界研究の必要性および、授業目標の確認				
2	業界研究1		映像の仕事に求められることは①				
3	業界研究2		映像の仕事に求められることは②				
4	業界研究3		これからの映像業界、働き方について①				
5	業界研究4		これからの映像業界、働き方について②				
6	業界研究5		就職活動の流れと現状について				
7	業界研究6		業界研究の情報収集方法				
8	業界研究7		自己PR・志望動機の考え方、作成方法①				
9	業界研究8		自己PR・志望動機の考え方、作成方法②				
10	振り返り		前期授業の振り返り				
11	業界研究9		映像業界の業種、職種に関して①				
12	業界研究10		映像業界の業種、職種に関して②				
13	業界研究11		求人情報の見方				
14	業界研究12		社会人として必要な知識①				
15	業界研究13		社会人として必要な知識②				
16	業界研究14		社会人として必要な知識③				
17	業界研究15		企業研究① 企業の情報を収集し、求まっているものを考える				
18	業界研究16		企業研究② 自分自身のプレゼンテーション方法を考える				
19	業界研究17		企業研究③ 模擬面接を行う				
20	まとめ		今後の目標の立て方と進め方				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことをまとめて提出する。				
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年以上勤務し、映像監督、プロデューサーを務める						

科目名	業界研究						
担当教員	本田 元治		実務授業の有無	○			
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像業界の全体像や仕組みを知る 2. 映像業界を目指すにあたり、何が自分に必要なかを考える 3. 映像業界を研究し自己理解を深める						
学習目標 (到達目標)	映像業界の仕事についての基礎的な知識を得る事により、将来の目標について考え、進路の方向性を明らかにする						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	ガイダンス		業界研究の必要性および、授業目標の確認				
2	業界研究1		映像の仕事に求められることとは①				
3	業界研究2		映像の仕事に求められることとは②				
4	業界研究3		これからの映像業界、働き方について①				
5	業界研究4		これからの映像業界、働き方について②				
6	業界研究5		就職活動の流れと現状について				
7	業界研究6		業界研究の情報収集方法				
8	業界研究7		自己PR・志望動機の考え方、作成方法①				
9	業界研究8		自己PR・志望動機の考え方、作成方法②				
10	振り返り		前期授業の振り返り				
11	業界研究9		映像業界の業種、職種に関して①				
12	業界研究10		映像業界の業種、職種に関して②				
13	業界研究11		求人情報の見方				
14	業界研究12		社会人として必要な知識①				
15	業界研究13		社会人として必要な知識②				
16	業界研究14		社会人として必要な知識③				
17	業界研究15		企業研究① 企業の情報を収集し、求まっているものを考える				
18	業界研究16		企業研究② 自分自身のプレゼンテーション方法を考える				
19	業界研究17		企業研究③ 模擬面接を行う				
20	まとめ		今後の目標の立て方と進め方				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことをまとめて提出する。				
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年以上勤務し、映像監督、プロデューサーを務める						

科目名	業界研究						
担当教員	本田 元治		実務授業の有無	○			
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像業界の全体像や仕組みを知る 2. 映像業界を目指すにあたり、何が自分に必要なかを考える 3. 映像業界を研究し自己理解を深める						
学習目標 (到達目標)	映像業界の仕事についての基礎的な知識を得る事により、将来の目標について考え、進路の方向性を明らかにする						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	ガイダンス		業界研究の必要性および、授業目標の確認				
2	業界研究1		映像の仕事に求められることとは①				
3	業界研究2		映像の仕事に求められることとは②				
4	業界研究3		これからの映像業界、働き方について①				
5	業界研究4		これからの映像業界、働き方について②				
6	業界研究5		就職活動の流れと現状について				
7	業界研究6		業界研究の情報収集方法				
8	業界研究7		自己PR・志望動機の考え方、作成方法①				
9	業界研究8		自己PR・志望動機の考え方、作成方法②				
10	振り返り		前期授業の振り返り				
11	業界研究9		映像業界の業種、職種に関して①				
12	業界研究10		映像業界の業種、職種に関して②				
13	業界研究11		求人情報の見方				
14	業界研究12		社会人として必要な知識①				
15	業界研究13		社会人として必要な知識②				
16	業界研究14		社会人として必要な知識③				
17	業界研究15		企業研究① 企業の情報を収集し、求まっているものを考える				
18	業界研究16		企業研究② 自分自身のプレゼンテーション方法を考える				
19	業界研究17		企業研究③ 模擬面接を行う				
20	まとめ		今後の目標の立て方と進め方				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことをまとめて提出する。				
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年以上勤務し、映像監督、プロデューサーを務める						

(2)

## 国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	業界研究						
担当教員	本田 元治		実務授業の有無	○			
対象学科	映像クリエイター科	対象学年	4	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 映像業界の全体像や仕組みを知る 2. 映像業界を目指すにあたり、何が自分に必要なかを考える 3. 映像業界を研究し自己理解を深める						
学習目標 (到達目標)	映像業界の仕事についての基礎的な知識を得る事により、将来の目標について考え、進路の方向性を明らかにする						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス			業界研究の必要性および、授業目標の確認			
2	業界研究1			映像の仕事に求められることは①			
3	業界研究2			映像の仕事に求められることとは②			
4	業界研究3			これからの映像業界、働き方について①			
5	業界研究4			これからの映像業界、働き方について②			
6	業界研究5			就職活動の流れと現状について			
7	業界研究6			業界研究の情報収集方法			
8	業界研究7			自己PR・志望動機の考え方、作成方法①			
9	業界研究8			自己PR・志望動機の考え方、作成方法②			
10	振り返り			前期授業の振り返り			
11	業界研究9			映像業界の業種、職種に関して①			
12	業界研究10			映像業界の業種、職種に関して②			
13	業界研究11			求人情報の見方			
14	業界研究12			社会人として必要な知識①			
15	業界研究13			社会人として必要な知識②			
16	業界研究14			社会人として必要な知識③			
17	業界研究15			企業研究① 企業の情報を収集し、求まっているものを考える			
18	業界研究16			企業研究② 自分自身のプレゼンテーション方法を考える			
19	業界研究17			企業研究③ 模擬面接を行う			
20	まとめ			今後の目標の立て方と進め方			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自分が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことをまとめて提出する。				
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年以上勤務し、映像監督、プロデューサーを務める						

科目名	メディア/新潟論				
担当教員	斎藤 和利		実務授業の有無	○	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 身の回りの様々なメディアの働きを理解する。 2. メディアの必要性および、問題性の両面を学習する。 3. 自ら正しく、尚且つ多くの人に受け入れられる情報発信力の視点を持つ				
学習目標 (到達目標)	現代社会におけるメディアの特性とはたらきを理解し、情報メディアを扱う姿勢とその活用方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス	講義のテーマと目指しているもの			
2	メディアの特性Ⅰ	世の中にある、さまざまなメディアの形を知る①			
3	メディアの特性Ⅱ	世の中にある、さまざまなメディアの形を知る②			
4	メディアの特性Ⅲ	世の中にある、さまざまなメディアの形を知る③			
5	メディア情報の特性Ⅰ	最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する①			
6	メディア情報の特性Ⅱ	最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する②			
7	メディア情報の特性Ⅲ	最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する③			
8	メディア・リテラシーⅠ	様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる①			
9	メディア・リテラシーⅡ	様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる②			
10	メディア・リテラシーⅢ	様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる③			
11	メディア文化の歴史Ⅰ	時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る①			
12	メディア文化の歴史Ⅱ	時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る②			
13	メディア文化の歴史Ⅲ	時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る③			
14	マーケティングⅠ	メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現①			
15	マーケティングⅡ	メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現②			
16	マーケティングⅢ	メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現③			
17	メディアと仕事Ⅰ	商品開発の仕事を学ぶ			
18	メディアと仕事Ⅱ	宣伝の仕事を学ぶ			
19	メディアと仕事Ⅲ	クリエイターの仕事を学ぶ			
20	まとめ	これまでの授業の振り返りとテスト			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
レポート提出50%、授業態度50%		社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づいたこと、これから必要なことをまとめて提出する。			
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴	テレビ局にて30年以上勤務し、プロデューサーを務める				

科目名	メディア/新潟論							
担当教員	斎藤 和利		実務授業の有無	○				
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 身の回りの様々なメディアの働きを理解する。 2. メディアの必要性および、問題性の両面を学習する。 3. 自ら正しく、尚且つ多くの人に受け入れられる情報発信力の視点を持つ							
学習目標 (到達目標)	現代社会におけるメディアの特性とはたらきを理解し、情報メディアを扱う姿勢とその活用方法を習得する。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	ガイダンス			講義のテーマと目指しているもの				
2	メディアの特性Ⅰ			世の中にある、さまざまなメディアの形を知る①				
3	メディアの特性Ⅱ			世の中にある、さまざまなメディアの形を知る②				
4	メディアの特性Ⅲ			世の中にある、さまざまなメディアの形を知る③				
5	メディア情報の特性Ⅰ			最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する①				
6	メディア情報の特性Ⅱ			最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する②				
7	メディア情報の特性Ⅲ			最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する③				
8	メディア・リテラシーⅠ			様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる①				
9	メディア・リテラシーⅡ			様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる②				
10	メディア・リテラシーⅢ			様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる③				
11	メディア文化の歴史Ⅰ			時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る①				
12	メディア文化の歴史Ⅱ			時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る②				
13	メディア文化の歴史Ⅲ			時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る③				
14	マーケティングⅠ			メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現①				
15	マーケティングⅡ			メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現②				
16	マーケティングⅢ			メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現③				
17	メディアと仕事Ⅰ			商品開発の仕事を学ぶ				
18	メディアと仕事Ⅱ			宣伝の仕事を学ぶ				
19	メディアと仕事Ⅲ			クリエイターの仕事を学ぶ				
20	まとめ			これまでの授業の振り返りとテスト				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。				社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことなどをまとめて提出する。				
実務経験教員の経歴	テレビ局にて30年以上勤務し、プロデューサーを務める							

科目名	メディア/新潟論				
担当教員	斎藤 和利		実務授業の有無	○	
対象学科	知能クロマニクス科	対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 身の回りの様々なメディアの働きを理解する。 2. メディアの必要性および、問題性の両面を学習する。 3. 自ら正しく、尚且つ多くの人に受け入れられる情報発信力の視点を持つ				
学習目標 (到達目標)	現代社会におけるメディアの特性とはたらきを理解し、情報メディアを扱う姿勢とその活用方法を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス	講義のテーマと目指しているもの			
2	メディアの特性Ⅰ	世の中にある、さまざまなメディアの形を知る①			
3	メディアの特性Ⅱ	世の中にある、さまざまなメディアの形を知る②			
4	メディアの特性Ⅲ	世の中にある、さまざまなメディアの形を知る③			
5	メディア情報の特性Ⅰ	最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する①			
6	メディア情報の特性Ⅱ	最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する②			
7	メディア情報の特性Ⅲ	最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する③			
8	メディア・リテラシーⅠ	様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる①			
9	メディア・リテラシーⅡ	様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる②			
10	メディア・リテラシーⅢ	様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる③			
11	メディア文化の歴史Ⅰ	時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る①			
12	メディア文化の歴史Ⅱ	時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る②			
13	メディア文化の歴史Ⅲ	時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る③			
14	マーケティングⅠ	メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現①			
15	マーケティングⅡ	メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現②			
16	マーケティングⅢ	メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現③			
17	メディアと仕事Ⅰ	商品開発の仕事を学ぶ			
18	メディアと仕事Ⅱ	宣伝の仕事を学ぶ			
19	メディアと仕事Ⅲ	クリエイターの仕事を学ぶ			
20	まとめ	これまでの授業の振り返りとテスト			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことをまとめて提出する。		
実務経験教員の経歴	テレビ局にて30年以上勤務し、プロデューサーを務める				

科目名	メディア/新潟論						
担当教員	斎藤 和利		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 身の回りの様々なメディアの働きを理解する。 2. メディアの必要性および、問題性の両面を学習する。 3. 自ら正しく、尚且つ多くの人に受け入れられる情報発信力の視点を持つ						
学習目標 (到達目標)	現代社会におけるメディアの特性とはたらきを理解し、情報メディアを扱う姿勢とその活用方法を習得する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	なし						
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考				
1	ガイダンス		講義のテーマと目指しているもの				
2	メディアの特性Ⅰ		世の中にある、さまざまなメディアの形を知る①				
3	メディアの特性Ⅱ		世の中にある、さまざまなメディアの形を知る②				
4	メディアの特性Ⅲ		世の中にある、さまざまなメディアの形を知る③				
5	メディア情報の特性Ⅰ		最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する①				
6	メディア情報の特性Ⅱ		最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する②				
7	メディア情報の特性Ⅲ		最近のニュースを取り上げ情報内容と媒体を研究する③				
8	メディア・リテラシーⅠ		様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる①				
9	メディア・リテラシーⅡ		様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる②				
10	メディア・リテラシーⅢ		様々なメディア表現方法と内容分析を行ってみる③				
11	メディア文化の歴史Ⅰ		時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る①				
12	メディア文化の歴史Ⅱ		時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る②				
13	メディア文化の歴史Ⅲ		時代に応じたメディア文化の変化と流れを知る③				
14	マーケティングⅠ		メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現①				
15	マーケティングⅡ		メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現②				
16	マーケティングⅢ		メディアを利用したマーケティング戦略と広告表現③				
17	メディアと仕事Ⅰ		商品開発の仕事を学ぶ				
18	メディアと仕事Ⅱ		宣伝の仕事を学ぶ				
19	メディアと仕事Ⅲ		クリエイターの仕事を学ぶ				
20	まとめ		これまでの授業の振り返りとテスト				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
レポート提出50%、授業態度50%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			社会力・人間力などを育成することを目的とします。最終的にはレポートで自身が学んだことを、気づけたこと、これから必要なことなどをまとめて提出する。				
実務経験教員の経歴	テレビ局にて30年以上勤務し、プロデューサーを務める						

科目名	アフレコ音響テクニカル演習						
担当教員	広川 一義		実務授業の有無		○		
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音響機材の使用方法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する						
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	音響基礎実習Ⅰ			映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ			
2	音響基礎実習Ⅱ			音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの接続、扱い方法を学ぶ			
3	音響基礎実習Ⅲ			録音機材の準備方法、収録方法			
4	音響基礎実習Ⅳ			ブームの使用方法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ			
5	音響基礎実習Ⅴ			スタジオ録音実習			
6	音響基礎実習Ⅵ			アフレコ録音実習			
7	音響基礎実習Ⅶ			アフレコ録音実習			
8	音響基礎実習Ⅷ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）			
9	音響基礎実習Ⅸ			効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）			
10	音響基礎実習Ⅹ			整音実習（アフレコ素材の整音）			
11	音響基礎実習Ⅺ			整音実習（アフレコ素材の整音）			
12	音響基礎実習Ⅻ			整音実習（アフレコ素材の整音）			
13	音響仕上げ実習Ⅰ			ミックスダウンを行ってみる。			
14	音響仕上げ実習Ⅱ			ミックスダウンを行ってみる。			
15	音響効果研究Ⅰ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する			
16	音響効果研究Ⅱ			アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する			
17	MA実習			映画・映像の音入れ作業			
18	MA実習			映画・映像の音入れ作業			
19	MA実習			映画・映像の音入れ作業			
20	MA実習			講評・テスト			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる						

科目名	アフレコ音響テクニカル演習									
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○						
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期					
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間					
授業概要、目的、授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する									
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。									
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布									
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考						
1	音響基礎知識Ⅰ			ENG、マルチトラック録音、ワイヤレスマイクの取り扱い。電波法を理解する。						
2	音響基礎知識Ⅱ			マルチトラック録音実践						
3	音響基礎知識Ⅲ			ENG収録実践						
4	効果音実習Ⅰ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。						
5	効果音実習Ⅱ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。						
6	効果音実習Ⅲ			アニメーションを使用し、アフレコ、効果音等付けてみる。						
7	録音実習Ⅰ			シナリオから短編映像制作を行う						
8	録音実習Ⅱ			シナリオを基に録音機材の機材のセッティング方法、機材の選定、操作方法の確認を行う。						
9	録音実践Ⅰ			短編映像制作						
10	録音実践Ⅱ			録集と同時に音素材收集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う						
11	録音実践Ⅲ			録集と同時に音素材收集、整音作業、監督との音設計・BGM等の打ち合わせを行う						
12	録音実践Ⅳ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う						
13	録音実践Ⅴ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う						
14	録音実践Ⅵ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う						
15	録音実践Ⅶ			整音作業、フォーリー等仕上げ作業を行う						
16	PA実習			音響機材を使用し、マイクや操作卓のセッティング方法などを学ぶ。						
17	MA実習			映画・映像の音入れ作業						
18	MA実習			映画・映像の音入れ作業						
19	MA実習			映画・映像の音入れ作業						
20	MA実習			講評・テスト						
評価方法・成績評価基準			履修上の注意							
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。										
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる								

(2)

科目名	アフレコ音響テクニカル演習						
担当教員	廣川 一義		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する						
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	レコーディング実習			ナレーション収録			
2	レコーディング実習			ナレーション収録			
3	レコーディング実習			ナレーション収録			
4	レコーディング実習			ナレーション収録			
5	レコーディング実習			オケを使用した歌唱収録			
6	レコーディング実習			オケを使用した歌唱収録			
7	レコーディング実習			オケを使用した歌唱収録			
8	レコーディング実習			オケを使用した歌唱収録			
9	MA実習			映像にナレーションを入れる			
10	MA実習			映像にナレーションを入れる			
11	MA実習			映像にナレーションを入れる			
12	MA実習			映像にナレーションを入れる			
13	MA実習			アニメの吹き替え			
14	MA実習			アニメの吹き替え			
15	MA実習			アニメの吹き替え			
16	MA実習			アニメの吹き替え			
17	MA実習			映画・映像の音入れ作業			
18	MA実習			映画・映像の音入れ作業			
19	MA実習			映画・映像の音入れ作業			
20	MA実習			講評・テスト			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%			積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる						

アフレコ音響テクニカル演習								
科目名	担当教員		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	16時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 様々な演出に応じた音の効果を学ぶ 2. 録音機材を使用し、収録を行う 3. 収録した音声を整音する							
学習目標 (到達目標)	録音部として映像作りに関わり、各部署と連携して短編映像を完成させる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	レコーディング実習			複数人で行うナレーション収録				
2	レコーディング実習			複数人で行うナレーション収録				
3	レコーディング実習			複数人で行うナレーション収録				
4	レコーディング実習			複数人で行うナレーション収録				
5	レコーディング実習			コーラス収録				
6	レコーディング実習			コーラス収録				
7	レコーディング実習			コーラス収録				
8	レコーディング実習			コーラス収録				
9	MA実習			映像にナレーションを入れる				
10	MA実習			映像にナレーションを入れる				
11	MA実習			映像にナレーションを入れる				
12	MA実習			映像にナレーションを入れる				
13	MA実習			アニメの吹き替え				
14	MA実習			アニメの吹き替え				
15	MA実習			アニメの吹き替え				
16	MA実習			アニメの吹き替え				
17	MA実習			映画・映像の音入れ作業				
18	MA実習			映画・映像の音入れ作業				
19	MA実習			映画・映像の音入れ作業				
20	MA実習			講評・テスト				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
実技試験70%、出席率30%				積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた映像作品を完成させること。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	映画基礎						
担当教員	朝倉 隆司	実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	48時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考えを持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ						
学習目標 (到達目標)	それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を発揮して新しい表現方法を発見していくのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	映画・映像批評（前期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）			
2	映画・映像批評（前期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）			
3	映画・映像批評（前期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）			
4	映画・映像批評（前期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）			
5	映画・映像批評（前期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）			
6	映画・映像批評（前期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャバニーズ・ホラー）			
7	映画・映像批評（前期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）			
8	映画・映像批評（前期）Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）			
9	映画・映像批評（前期）Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）			
10	映画・映像批評（後期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）			
11	映画・映像批評（後期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディー映画）			
12	映画・映像批評（後期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）			
13	映画・映像批評（後期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）			
14	映画・映像批評（後期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）			
15	映画・映像批評（後期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）			
16	映画・映像批評（後期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意					
レポート70%、出席率30%		16回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー						

映画基礎								
科目名	朝倉 隆司		実務授業の有無	○				
担当教員	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
対象学科	必修	単位数	一	単位時間数	48時間			
必修・選択								
授業概要、目的、授業の進め方	1. 幅広い映画・映像作品に触れ表現の幅を広げる 2. 映画・映像に対する自分なりの考え方を持つ 3. 映像制作における共通言語を持つ							
学習目標 (到達目標)	それぞれの時代の映画監督が、多種多様な創造性を發揮して新しい表現方法を発見していったのかを知り、自分の作品制作に活かせるようになる。							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1	映画・映像批評（前期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（サイレント）				
2	映画・映像批評（前期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ドキュメンタリー）				
3	映画・映像批評（前期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（時代劇）				
4	映画・映像批評（前期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）				
5	映画・映像批評（前期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（洋画作品）				
6	映画・映像批評（前期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（ジャバニーズ・ホラー）				
7	映画・映像批評（前期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（B級ホラー）				
8	映画・映像批評（前期）Ⅷ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（アクション）				
9	映画・映像批評（前期）Ⅸ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（恋愛映画）				
10	映画・映像批評（後期）Ⅰ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）				
11	映画・映像批評（後期）Ⅱ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コメディー映画）				
12	映画・映像批評（後期）Ⅲ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（プロモーション映像）				
13	映画・映像批評（後期）Ⅳ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（コマーシャル研究）				
14	映画・映像批評（後期）Ⅴ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（特撮映画）				
15	映画・映像批評（後期）Ⅵ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（戦争映画）				
16	映画・映像批評（後期）Ⅶ			映画・テレビドラマ・実験映像を観てレポートを提出する。（邦画作品）				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
レポート70%、出席率30%				16回すべての授業に出席し、尚且かならずレポートを提出する事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー							

科目名	PC & WEBリテラシー				
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	映像プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	10時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. コンピュータおよびネットワークなどに関する知識と正しく操作出来るスキルを身につける				
学習目標 (到達目標)	情報を活用する為の基礎的な能力を高め、コンピュータおよびWEBに関する基礎知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ガイダンス		講義の目標および内容の確認。		
2	コンピュータ概論Ⅰ		コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ①		
3	コンピュータ概論Ⅱ		コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ②		
4	コンピュータ概論Ⅲ		OS別の特性と基本操作を学ぶ		
5	ネットワークⅠ		インターネットの基本知識とマナーを学ぶ①		
6	ネットワークⅡ		インターネットの基本知識とマナーを学ぶ②		
7	ネットワークⅢ		インターネットを利用した情報発信方法と注意点		
8	ネットワークⅣ		電子メール送受信に関する基本操作とマナー		
9	文書作成基礎Ⅰ		ワープロソフトの基本操作①		
10	文書作成基礎Ⅱ		ワープロソフトによる表の作成、ビジネス文書の作成		
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			<ul style="list-style-type: none"> <li>映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。</li> <li>内部だけでなく外部の協力を得て一つの形を完成させる事</li> </ul>		
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。					
実務経験教員の経歴		映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる			

(2)

国際映像メディア専門学校 シラバス

PC & WEBリテラシー							
科目名	担当教員		実務授業の有無				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	10時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. コンピュータおよびネットワークなどに関する知識と正しく操作出来るスキルを身につける						
学習目標 (到達目標)	情報を活用する為の基礎的な能力を高め、コンピュータおよびWEBに関する基礎知識を習得する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス			講義の目標および内容の確認。			
2	コンピュータ概論Ⅰ			コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ①			
3	コンピュータ概論Ⅱ			コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ②			
4	コンピュータ概論Ⅲ			OS別の特性と基本操作を学ぶ			
5	ネットワークⅠ			インターネットの基本知識とマナーを学ぶ①			
6	ネットワークⅡ			インターネットの基本知識とマナーを学ぶ②			
7	ネットワークⅢ			インターネットを利用した情報発信方法と注意点			
8	ネットワークⅣ			電子メール送受信に関する基本操作とマナー			
9	文書作成基礎Ⅰ			ワープロソフトの基本操作①			
10	文書作成基礎Ⅱ			ワープロソフトによる表の作成、ビジネス文書の作成			
11							
12							
13							
14							
15							
16							
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%							
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			・映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・内部だけではなく外部の協力を得て一つの形を完成させる事				
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる						

科目名	PC & WEBリテラシー				
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	<input checked="" type="radio"/>	
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. コンピュータおよびネットワークなどに関する知識と正しく操作出来るスキルを身につける				
学習目標 (到達目標)	情報を活用する為の基礎的な能力を高め、コンピュータおよびWEBに関する基礎知識を習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス	講義の目標および内容の確認。			
2	コンピュータ概論Ⅰ	コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ①			
3	コンピュータ概論Ⅱ	コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ②			
4	コンピュータ概論Ⅲ	OS別の特性と基本操作を学ぶ			
5	ネットワークⅠ	インターネットの基本知識とマナーを学ぶ①			
6	ネットワークⅡ	インターネットの基本知識とマナーを学ぶ②			
7	ネットワークⅢ	インターネットを利用した情報発信方法と注意点			
8	ネットワークⅣ	電子メール送受信に関する基本操作とマナー			
9	文書作成基礎Ⅰ	ワープロソフトの基本操作①			
10	文書作成基礎Ⅱ	ワープロソフトによる表の作成、ビジネス文書の作成			
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%					
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。</li> <li>・内部だけでなく外部の協力を得て一つの形を完成させる事</li> </ul>			
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

## 国際映像メディア専門学校 シラバス

科目名	PC & WEBリテラシー						
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	20時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. コンピュータおよびネットワークなどに関する知識と正しく操作出来るスキルを身につける						
学習目標 (到達目標)	情報を活用する為の基礎的な能力を高め、コンピュータおよびWEBに関する基礎知識を習得する。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	ガイダンス			講義の目標および内容の確認。			
2	コンピュータ概論Ⅰ			コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ①			
3	コンピュータ概論Ⅱ			コンピュータの操作を行う上で必要な基礎を学ぶ②			
4	コンピュータ概論Ⅲ			OS別の特性と基本操作を学ぶ			
5	ネットワークⅠ			インターネットの基本知識とマナーを学ぶ①			
6	ネットワークⅡ			インターネットの基本知識とマナーを学ぶ②			
7	ネットワークⅢ			インターネットを利用した情報発信方法と注意点			
8	ネットワークⅣ			電子メール送受信に関する基本操作とマナー			
9	文書作成基礎Ⅰ			ワープロソフトの基本操作①			
10	文書作成基礎Ⅱ			ワープロソフトによる表の作成、ビジネス文書の作成			
11							
12							
13							
14							
15							
16							
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			・映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・内部だけでなく外部の協力を得て一つの形を完成させる事				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる						

コミュニケーション検定							
科目名	担当教員		実務授業の有無	×			
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	35時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 聞く・話すを円滑に行う知識の習得 2. 敬語（丁寧語・謙譲語・尊敬語）を理解する 3. 場に応じた正しい対応力を社会人の仕事の例を使い理解する。						
学習目標 (到達目標)	社会人に向けてのコミュニケーション能力の必要性を理解し、仕事などの場で、人間関係を構築出来る知識を得る。						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	参考書「サーティファイ主催 コミュニケーション能力検定初級」（問題集含む）						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1	コミュニケーションとは？			P2 コミュニケーションの必要性を考える			
2	聞く力			P6～P9 目的に即して聞く			
3	聞く力			P10～P14 傾聴・質問する			
4	話す力			P15～P17 目的を意識する			
5	話す力			P18～P22 話を組み立てる			
6	話す力			P23～P29 言葉を選び抜く			
7	話す力			P30～P35 表現・伝達する			
8	実践基礎1			P36～P39 来客応対			
9	実践基礎2			P40～P43 電話応対			
10	実践基礎3			P44～P48 アポイントメント・訪問・挨拶			
11	実践基礎4			P49～P54 情報共有の重要性			
12	実践基礎5			P55～P59 チーム・コミュニケーション			
13	実践応用1			P60～P65 接客・営業			
14	実践応用2			P66～P71 クレーム対応			
15	実践応用3			P72～P77 会議・取材・ヒヤリング			
16	実践応用4			P78～P83 面接			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%			授業では、教科書にない事例も使います。また、特に必要を感じたコミュニケーションの話しも交えながら進めて行くことで、より身近なこととして必要性を感じながら履修してください。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	コミュニケーション検定指導歴15年以上						

科目名	卒業進級制作						
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○			
対象学科	映画プロフェッショナル	対象学年	1	開講時期	前期・後期		
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	363時間		
授業概要、目的、授業の進め方	1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施						
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会						
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。						
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考			
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）			
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正			
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正			
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正			
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正			
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正			
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け			
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り			
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り			
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り			
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA			
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA			
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA			
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA			
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正			
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ			
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会			
評価方法・成績評価基準			履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%			・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。							
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる						

卒業進級制作								
科目名								
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	2	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	395時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正				
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正				
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正				
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正				
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正				
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け				
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り				
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り				
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り				
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA				
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA				
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA				
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA				
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正				
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ				
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	卒業進級制作							
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	3	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	430時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正				
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正				
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正				
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正				
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正				
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け				
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り				
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り				
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り				
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA				
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA				
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA				
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA				
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正				
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ				
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							

科目名	卒業進級制作							
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○				
対象学科	映画プロデュース科	対象学年	4	開講時期	前期・後期			
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	430時間			
授業概要、目的、授業の進め方	1. 各学年集大成の学習発表の場である 2. 制作プロセスの経験と発表 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施							
学習目標 (到達目標)	全期授業の集大成としての映像作品の制作および上映会							
テキスト・教材・参考図書・その他資料	映像制作に必要なテープ、画コンテ用紙などは配布します。							
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考				
1・2	企画書立案・協議Ⅰ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
3・4	企画書立案・協議Ⅱ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
5・6	企画書立案・協議Ⅲ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
7・8	企画書立案・協議Ⅳ			学生事の作品企画（テーマ・ジャンル・内容など）				
9・10	シナリオ制作・修正Ⅰ			シナリオ制作・チェック・修正				
11・12	シナリオ制作・修正Ⅱ			シナリオ制作・チェック・修正				
13・14	シナリオ制作・修正Ⅲ			シナリオ制作・チェック・修正				
15・16	シナリオ制作・修正Ⅳ			シナリオ制作・チェック・修正				
17・18	シナリオ制作・修正Ⅴ			シナリオ制作・チェック・修正				
19・20	学内プレゼン・班編成			シナリオ・企画書を基にしたプレゼンおよび班分け				
21・22	制作準備Ⅰ			撮影・スケジュール・許可取り				
23・24	制作準備Ⅱ			撮影・スケジュール・許可取り				
25・26	制作準備Ⅲ			撮影・スケジュール・許可取り				
27・28	制作実践Ⅰ			撮影・編集・MA				
29・30	制作実践Ⅱ			撮影・編集・MA				
31・32	制作実践Ⅲ			撮影・編集・MA				
33・34	制作実践Ⅳ			撮影・編集・MA				
35・36	編集チェック・修正			撮影・編集・MAのチェックおよび、修正				
37・38	最終仕上げ			撮影・編集・MA 最終的な仕上げ				
39・40	作品上映会			講師および、外部ゲストを招いての講評会				
評価方法・成績評価基準				履修上の注意				
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30%				・進級制作としての映像制作を体験しながら、自分自身の役割を最後まで行う事。 ・完成した作品を上映し、内部だけでなく外部評価を受ける事。				
成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。								
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる							